

協同って
いいかも

映画とまつりだんらんチーム
～チケットと協賛広告普及のポイント



1 なぜ映画づくりに いたったか

武重邦夫プロデューサー

出合いは

南生協病院総合案内のボランティアさんに入院患者と間違えられた。その親切でおせっかいな笑顔におどろいた。これが病院なのかと。



南医療生協の歴史

伊勢湾台風で崩壊した直後にできた星崎診療所の若い女医さんと子どもたちの笑顔の一枚の写真。救援活動から南医療生協生協が誕生し308名の組合員さんの協同でスタート。50年後の今日6万人を超える組合員さんと40の事業所の協同で、健康なまちづくり支援。

これだ！

無縁社会が広がる中で、地域社会のきずなをとりもどすものが、南医療生協にある！

50年の歴史に脈々と培ってきた人と人をつなぐ協同のとりくみ。それは日常的に行われている班会や健康の友の配布、いっぶくなどのたまり場での活動、健康チェックなど人と人がつながる場、それは「地域だんらん」。



いのちの三部作 小池征人監督の総集編

地域だんらんなら、やがて「だんらんにつぼん」にひろがって行ってほしいという願いをこめて映画づくりを決断した。

- ① 55年前 岩手県の豪雪の村で深沢村長がめざした「全国で初めて乳幼児死亡率ゼロを達成した村」の今日と未来を描いた「いのちの作法」
- ② みちのくの児童養護施設の記録、児童虐待と向き合った映画「葦牙」
- ③ 都会版いのちの作法として南医療生協を舞台にした「だんらんにつぼん」

みんなちがってみんないい ひとりひとりのいのち輝くまちづくり

2 映画づくりのとりくみ

映画とまつりをひろげ 10万人の
つながりづくりで「地域だんらん」
3万人のまつりと映画協力券の普及
1000件の協賛広告

2010年10月から

監督 小池征人 助監督 藤崎仁志 撮影 一之瀬正史 撮影助手 吉田晃太、4人の映画班の皆さんが、星崎地域の古民家「地域だんらんの家」で活動開始。

2010年11月

6万人会議映画制作チーム発足し映画班と協同でとりくみ開始。
地域や事業所から撮影依頼書 130枚

2011年1月

記念まつりチームと映画制作チームが合体し、一体のものとして活動。
各ブロックに映画とまつり地域推進チーム会議スタート
まつりの名称は「南医療生協創立50周年記念だんらんまつり」と決定

2011年3月

撮影終了 120時間。現在東京にもどって編集作業中。
7つくらいの暮らし助け合いのストーリーで完成予定。



3 スケジュール



5月末（理事会）

まつり会場、映画上映会場と日時を大よそ決める。

6月総代会 映画とまつり案内チラシの配布

映画とまつりパンフ 原稿締め切り

7月末 協賛広告締め切り

8月末 映画とまつりパンフ完成

記録映画「だんらんにつぼん」完成予定

10月 記録映画「だんらんにつぼん」試写会

11月 上映スタート

4 映画とまつりを一体にとりくんだ先にみえるもの

ひとりぼっちじゃない

人と人と協同するっていいかも

あっちでも、こっちでも

ささえあい、たすけあいの

地域だんらんまちづくり